

教育研究業績書

2016年10月01日

所属：生活環境学科

資格：講師

氏名：井上 雅人

研究分野	研究内容のキーワード
デザイン史、ファッション史、物質生活史	近代、日本、ファッション、デザイン、物質生活
学位	最終学歴
修士（社会学）、学士（文学）	東京大学大学院 人文社会系研究科 社会文化研究専攻 博士後期課程 満期退学

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 専門社会調査士	2010年10月	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. デザインの瞬間	共 単	2003年06月	角川書店	責任編集
2. 洋服と日本人 国民服というモード		2001年10月1日	廣済堂出版	
2 学位論文				
1. 「モード以前の事：国民服と標準服のデザイン決定及び普及活動に見られる衣服のメディア性とコミュニケーション状況」	単	2000年03月	東京大学大学院	修士論文
3 学術論文				
1. 衣冠束帯 スーツ 工人服 軍服 四つの身体を統合する試みとしての国民服	単	2013年10月	『日本の男服 メンズ・ファッションの源泉』神戸ファッション美術館	
2. コム・デ・ギャルソン論争とアンアン革命 一植谷雄高と吉本隆明の論争にみる、プレタポルテへのまなざしの変化	単	2013年09月	『京都精華大学紀要』43号 京都精華大学	
3. 国民服 境界なき空間のユニバーサルな身体	単	2013年04月	『DRESSTUDY』63号 京都服飾研究財団	
4. 造形は衣服と建築から成っている 今和次郎の服装論	単	2013年01月	『今和次郎と考現学』河出書房新社	
5. 自由・平等・コム デ ギャルソン——コム デ ギャルソンと制服の思想	単	2012年12月	『相対性コム デ ギャルソン論』フィルムアート社	
6. 移動する身体	単	2012年10月	『生活の美学を探る』光生館	
7. 80年代をどう捉えるか	単	2012年02月	『Fashionista』1号	
8. プロダクトデザインに倫理はあるか	単	2011年11月	『生活をデザインする』光生館	
9. ファッションデザインを歴史的に考える	単	2011年10月	『生活をデザインする』光生館	

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
10. 終着としての世界デザイン会議	単	2011年07月	『デザイン史学』9号 デザイン史研究会	
11. 洋裁文化の構造——戦後期日本の ファッションと、その場・行為者 ・メディア (2)	単	2011年	『京都精華大学紀要』 38号 京都精華大学	
12. 日本における「ファッション誌」 生成の歴史化	単	2010年	『都市文化研究』12 号 大阪市立大学	
13. 洋裁文化の構造——戦後期日本の ファッションと、その場・行為者 ・メディア (1)	単	2010年	『京都精華大学紀要』3 7号 京都精華大学	
14. 昭和三〇年代におけるファッショ ンとテレビCM	単	2010年	『テレビ・コマーシャル の考古学』世界思想 社	
15. 2007年 関西の洋裁店・洋装店に 関する調査研究	単	2009年	『関西文化研究叢書11 関西における洋裁文 化形成に関する研究』 武庫川女子大学	
16. 「メディア論」の身体論的問題構 制——マクルーハンとマンフォード における身体・機械・メディアを 中心に	単	2007年	『京都精華大学紀要』 33号 京都精華大学	
17. 隆盛期の藤川学園と洋裁文化	単	2005年12月	『関西文化研究』4号 武庫川女子大学	
18. 近代化と民族化——明治時代に おける和服の近代化をめぐるファッ ション論	単	2004年	『民族芸術』20号 民族芸術学会	
19. 衣服のコミュニケーション	単	2003年	『モードと身体—ファ ッション文化の歴史と 現在』角川書店	
20. 総動員体制下の衣服政策と風俗	単	2003年	『衣と風俗の一〇〇年 』ドメス出版	
21. ベネトンの広告写真家	単	2003年	『現代写真のリアリテ ィ』角川書店	
22. ファッションの歴史記述の諸相	単	2002年	『デザイン学研究』9 巻4号 デザイン学会	

その他

1. 学会ゲストスピーカー

--	--	--	--	--

2. 学会発表

1. 「ジャパニーズ・ファッション」 のはじまり	単	2011年03月2 7日	大正イマジュリィ学会 第9回全国大会	
-----------------------------	---	-----------------	-----------------------	--

3. 総説

1. 日本の洋裁文化と民主主義	単	2016年08月0 1日	「αシノドス vol.201 」株式会社シノドス	岩本真一『ミシンと衣服の経済史 地球規模経済と 家内生産』の書評。	
2. 服の声を聴く	単	2016年05月0 1日	『文鯨』2016春号 『 文鯨』編集部		
3. 『ミシンと衣服の経済史』書評	単	2015年09月0 1日	日本歴史学会『日本歴 史』9月号 吉川弘文 館		
4. あしたの着る機能	単	2015年03月0 1日	『CEL』109号 大阪ガ ス		
5. 手づくりから既製服へ	単	2014年12月2 5日	『民俗学事典』丸善		
6. 「第三期デザイナー」までの理論 とデザイン	単	2014年09月1 0日	『視る』471号 京都 国立近代美術館		
7. 人生を彩る技術	単	2014年03月	『婦人之友』婦人之友 社		
8. 中原淳一と少女たちのメディア 少女雑誌からファッション誌へ	単	2013年11月	『ユリイカ』45巻1 6号 青土社		
9. 座談会) ミシンが語る母たちの近 代史	共	2013年10月	『婦人之友』婦人之友 社		アンドルー・ゴードン, 井上雅人, 田部小枝子
10. 西宮船坂ビエンナーレ2012「竹林 」について	共	2013年09月	『生活環境学研究』1 号 武庫川女子大学		森本真と共著
11. 神戸ファッション美術館	単	2013年03月	『ポピュラー文化ミュ ージウム』ミネルヴァ 書房		
12. 植田正治写真美術館	単	2013年03月	『ポピュラー文化ミュ ージウム』ミネルヴァ		

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3. 総説				
13. 手芸と自家裁縫 趣味と生産のあいだ	単	2011年11月	書房 『生活文化玉手箱シリーズ2共感のちから無名のちから 明治・大正・昭和を生きた人々の手芸品』武庫川女子大学資料館	
14. 日本の文字とグラフィックデザイン	単	2010年10月	『生活文化玉手箱シリーズ1キモノの文字文様に託された世界』武庫川女子大学資料館	
15. 布の消滅	単	2010年03月	『現代デザイン事典』平凡社	
16. 1940/50年代と消費者の身体 洋裁文化の事例を中心に	単	2009年7月	『ポピュラーカルチャー研究 Vol.2 No.4』京都精華大学	
17. ロンドン万国博覧会	単	2009年4月	『デザインの現場』美術出版社	
18. 「洋裁映画」にみる「デザイナー」の表象	単	2008年3月	『東アジアにおける洋装化と洋裁文化の形成』武庫川女子大学	
19. インダストリアルデザインからみたテレビCM	単	2008年	『テレビCM研究 Vol.2 No.3』京都精華大学	
20. 洋裁文化からみたテレビCM	単	2008年	『テレビCM研究 Vol.2 No.1』京都精華大学	
21. カタログ概史 コメニウスからインターネットまで	単	2007年	『ポピュラーカルチャー研究 1巻2号』京都精華大学	
22. ファッションデザイン	単	2006年	『近代デザイン史』武蔵野美術大学	
23. ファッション文化	単	2004年03月	『社会情報学ハンドブック』東京大学出版会	
24. コンシューマ＝デザイナーの発現 消費活動化するデザイン	単	2004年	『デザインニュース(266)』日本産業デザイン振興会	
25. A-poc	単	2000年6月	『20-21世紀デザインインデックス』IN AX出版	
26. プレタポルテ	単	2000年6月	『20-21世紀デザインインデックス』IN AX出版	
27. Tシャツ／ジーンズ	単	2000年6月	『20-21世紀デザインインデックス』IN AX出版	
28. スポーツウェア	単	2000年6月	『20-21世紀デザインインデックス』IN AX出版	
29. ピアシング／タトゥー	単	2000年6月	『20-21世紀デザインインデックス』IN AX出版	
30. 再生衣料	単	2000年6月	『20-21世紀デザインインデックス』IN AX出版	
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
1. 竹林	共	2012年10月	西宮船坂ビエンナーレ2012	「井上雅人研究室 + 森本真研究室」名義
2. stilllife 2.2	共	2011年8月	大阪市立図書館	「井上雅人 + CENTER EAST」名義
3. stilllife 3	共	2010年10月	「井上雅人 + CENTER EAST」展 京都造形芸術大学ギャラリーRAKU	「井上雅人 + CENTER EAST」名義
4. stilllife 2	共	2010年10月	「井上雅人 + CENTER EAST」展 京都造形芸術大学ギャラリーRAKU	「井上雅人 + CENTER EAST」名義
5. stilllife 1	共	2010年05月	「京展」京都市立美術館	「井上雅人 + CENTER EAST」名義
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. 日本人と衣服の歴史	単	2016年08月29日	応用哲学会サマースクール2016	応用哲学会主催の、レクチャー 8月29日(月) - 8月30日(火)

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
2. 戦後70年の軌跡 戦後日本のファッションと民主主義	単	2015年08月30日	「ファッション批評の最前線：fashion meets philosophy」 朝日カルチャーセンター 新宿教室	13:00-18:00 1/8bldg. 4F イベントスペース Ipe 日本では洋装化が、大衆化のプロセスの中で起こった。もちろん、戦前には上流階級における洋服の文化があり、和服においては百貨店やメディアがからんだ高度な消費社会的なかけひきはあった。しかし、総動員体制における徹底した身体の平等化と、戦後に占領軍が持ち込んだ「民主化」という概念の、具体的な解釈の形として、現在の日本のファッションはスタートしている。「大衆」や「中流」という、のっぺりと漠然とした層にむけてファッションが作られてきたということは、この社会の性格を見事に反映している。「ファッション」と「民主主義」から、戦後日本の社会を読み解く。
3. 「ファッションを考える：ショッピング」	共	2015年05月24日	gallery110	「ファッションと場」について考えることを目的としたレ連続トークイベントの第1回。 登壇者：成実弘至・井上雅人・蘆田裕史
4. 剣持勇の世界	単	2015年05月16日	同志社大学今出川キャンパス至誠館5階共同研究室	第6回デザイン史研究会
5. 長沢節 洋裁文化のアイコン	単	2014年10月1日	Think of Fashion 021	長沢節は、戦後の日本を代表するスタイル画家であり、華やいた少女たちを描いた中原淳一と対照的に、色気のある大人の女性と、線の細い男性を描いた。スタイル画は、現在ではデザイン画と混同されてしまうが、写真印刷が不鮮明な時代にあつて、写真以上にコレクションの昂奮を伝えることのできる、時代特有のメディアであった。長沢は、「長沢はひとりでもいい」と言われるくらい模倣され賞賛された時代の寵児であった。しかし、あまり注目されることは無いが、長沢はスタイル画家以上に、当時のファッション界におけるプロデューサーとして活躍した。セツ・モードセミナーを創立して多くの学生を教えただけでなく、日本発のモードや既製服開発の中心となり、『an・an』などファッション雑誌の創刊に深く関わった。はたして長沢を節点として、いかなるものたちが交差したのか。 戦後日本のファッションを考える。
6. 「Future Beauty」展を語る	共	2014年05月04日	gallery110	京都国立近代美術館で開催の「Future Beauty」展についてのトークイベント。 展覧会の主催者である京都服飾文化研究財団にも所属する石関を中心に、座談会形式で展示について経緯や裏側を含めて語りあった。 登壇者：石関亮・成実弘至・井上雅人・小北光浩・蘆田裕史
7. 「日本のイタリアファッションについて考える」	共	2014年03月02日	gallery110	「古田賢とイタリアファッション展 ヴェルサーチコレクションを中心に」 2014年2月28日～3月9日、gallery 110におけるヴェルサーチ研究者の古田賢によるイタリアファッションコレクションの展示におけるトークイベント。
8. 1960 年代のデザイン	単	2013年10月12日	シンポジウム「1960s—メンズ・ファッションの黎明期」 神戸ファッション美術館	
9. デザイン史研究の現況	単	2013年08月23日	帝国ホテルタワー（インペリアルタワー）9階・武庫川女子大学東京センター	第4回デザイン史研究会
10. コムデギャルソン論争とアンアン革命 DCブランドブームを考える	単	2013年05月26日	Think of Fashion 008	『アンアン』の1984年9月21日号に、「現代思想界をリードする吉本隆明の「ファッション」という文章が見開きで掲載された。そして、これが掲載された後に、吉本隆明と埴谷雄高の間に「コム・デ・ギャルソン論争」と呼ばれる一連のやりとりがあった。この論争にたいする評価は、非常に低い。「コム・デ・ギャルソン論争」と言いながら、「コム・デ・ギャルソン」に関する議論は、やり取りの最後にならないと出て来ない。しかし85年に起きたこの論争は女性が洋服を作ることから買うことになった時期の、象徴的な事件でもあるのだ。「コム・デ・ギャルソン論争」や「アンアン革命」という言葉を通して、「DCブランドブーム」をもたらした社会について考える。
11. ファッションの外野が自由に語る コムデギャルソン論——研究者編	共	2013年02月06日	心斎橋スタンダードブックストア（大阪）	西谷真理子・蘆田裕史・井上雅人・千葉雅也
12. カベルとは誰か—神戸仕立業はじめ	単	2012年11月12日	「日本の洋装化140周年記念シンポジウム	

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
13. Kawaii Zakkaの可能性	共	2012年07月14日	CLOTHING JAPAN 140 日本の洋服の原点」 神戸ファッション美術館 「Kawaii Zakka 展覧会 ～カワイイとカワイク ナイの間～」シンポジ ウム 中之島デザインミュー ジウム de sign de	スピーカー 岡田栄造（京都工芸繊維大学准教授）・ 井上雅人（武庫川女子大学講師） たかぎみ江（ぼむ企画）・多田智美（MUESM・編集者）
14. ファッションの批評について考える	共	2012年03月03日	スタンダードブックス トア 心齋橋	ファッション批評誌『fashionista』創刊を記念した トークイベント 登壇者：井上雅人・蘆田裕史・水野大二郎
15. 『考現学の教科書』を考える	共	2011年05月15日	日本生活学会 第38 回研究発表大会 早稲 田大学	佐藤健二（東京大）・中谷礼仁（早大）・祐成保志 （信州大）・石川初（ランドスケープデザイン）・ 井上雅人（武庫川女子大）
16. ファッションとアートの現在	共	2010年11月21日	『スタイルライフ / CE NTER EAST+井上雅人』 展シンポジウム 京都造形芸術大学 ギ ャラリーRAKU	井上雅人/成実弘至/百々 徹/蘆田裕史/石関 亮
17. 「スタイルライフ 井上雅人 + CENTER EAST」展	+	2010年10月	京都造形芸術大学ギ ャラリーRAKU	CENTER EAST との共作「stilllife」シリーズの展 示。
18. アートは地域を救えるか	共	2010年09月06日	西宮ビエンナーレ2010 シンポジウム 場所：旧船坂小学校体 育館（西宮市山口町船 坂2103-2）	○パネラー：藤本由紀夫（「ヴェネツィア・ビエン ナーレ」）、中瀬康志（FUJINO国際アートシンポジ ウム・神奈川）、端聡（CAI現 代芸術研究所・札 幌）、山重徹夫（中之条ビエンナーレ・群馬）、小 野寺優元（国際野外の表現展比企・埼玉）、江上弘 （我孫子国際野外美術展・千葉）、中田洋子（琵琶 湖ビエンナーレ・滋賀）、松尾寛（銀聲舎・和歌山 ）、高見沢清隆（六甲ミーツアート・神戸）、西野 昌克（有馬温泉路地裏アートプロジェクト）、田中 圭一（堺市教 育委員会指導主事）、河南誠（丹波篠 山まちなみアートフェスティバル）、櫻井淳子（千 早赤阪村野外美術展in棚田） ○コメンテーター：小吹隆文（美術ライター）、他 ○司会：井上雅人（社会学者・武庫川女子大学専任 講師） ○オブザーバー：水野順之（文化・芸術による福武 地域振興財団事務局） ○ホスト：藤井達矢（総合ディレクター）、北夙川 不可止（舞台公演担当ディレクター）
19. 世界デザイン会議1960再考—WoDe Co 50周年をめぐって—	共	2010年07月17日	デザイン史学研究会 第8回シンポジウム	会 場：津田塾大学 AVセンター1階 榮久庵憲司（インダストリアルデザイナー） 柏木 博（武蔵野美術大学教授・デザイン評論家） 井上雅人（武庫川女子大学講師）井口壽乃（埼玉大 学教授・デザイン史学研究会会長）
20. 今和次郎の服装研究 着るを視る まなざし	単	2010年05月08日	日本生活学会 第37 回研究発表大会 シン ポジウム「異装の考現 学」	
21. 洋裁文学と映画	単	2007年06月24日	MKCR第4回国際シンポジ ウム「東アジアにおけ る洋装化と洋裁文化の 形成」	
22. 服飾文化研究における資料の問題	共	2006年03月	武庫川女子大学	日本家政学会服飾史・服飾美学研究部会 登壇者：井上章一、井上雅人
23. ファッションと身体	共	2005年07月	日本経済評論社	ジョアン・エントウィスル著 協同翻訳
24. 衣と風俗の一〇〇年	共	2004年10月		日本生活学会 公開シンポジウム「衣と風俗の一〇 〇年」パネラー
25. 関西ファッション史の形成にむけ て	単	2004年07月26日	武庫川女子大学中央キ ャンパス	『関西におけるファッション（衣）文化の形成—裁 縫習得及び衣服作りに関する事例発掘を通して—』 の研究会
26. 「衣服文化と伝統の創造」	単	2004年02月	国立民族学博物館	国立民族学博物館共同研究『【13】モノに見る生活 文化とその時代に関する研究—国立民族学博物館所 蔵の大村しげコレクションを通して—』発表
27. 「無駄の効用—揺らぎと遊び—」	共	2004年01月	国立研究開発法人 科学 技術振興機構 異分野研 究者交流フォーラム	コメンテーターおよび実行委員
28. 「戦後50年間の服飾文化および服 飾デザインに関する概説書 — 服飾文化学および服飾デザイン教 育の見直しのために—」	共	2003年11月16日	武庫川女子大学中央キ ャンパス	第45回意匠学会大会シンポジウム 司会：横川 公子（武庫川女子大学） パネラー：青木 美保子（京都工芸繊維大学大学院） ・井上 雅人（京都造形芸術大学）、森 理恵（京都 府立大学）、平光 睦子（大阪大学大学院）

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
6. 研究費の取得状況				
1. モノにみる現代日本の生活文化と歴史の発掘とその活用に関する研究	共	2012年度～2015年度	科学研究費 研究分野： 文化人類学・民俗学 研究種目： 基盤研究(C)	研究分担者
2. 最初期テレビCMの学際的研究-ネットワーク配信による研究・教育活用システムの構築	共	2009年度～2011年度	科学研究費 新学術領域研究(研究課題提案型研究費)	研究分担者
3. 現代日本のポピュラーカルチャーの相関分析による成立基盤の実証的研究	共	2009年度～2010年度	科学研究費 研究分野： 芸術学・芸術史・芸術一般 研究種目： 挑戦的萌芽研究	研究分担者
4. 暮らしにおけるモノと人との相互的関係に関する生活文化学的研究	共	2004年度～2006年度	科学研究費 研究分野： 文化人類学・民俗学 研究種目： 基盤研究(B)	研究分担者

学会及び社会における活動等

年月日	事項
	日本生活学会